

# 血管造影検査について

血管は、レントゲンでは見ることはできません。血管造影検査は、カテーテルと呼ばれる細い管(1~2mm)を目的の部位まで挿入し、造影剤と呼ばれる薬を使用して血流や腫瘍の分布を見たり、血管の狭窄や閉塞を知るための検査です。

IVR(Interventional Radiology)と呼ばれる血管内治療も多く行われています。

Angio-CT 装置は、同一撮影室内に血管撮影システムと CT システムの両方を設置して、検査寝台を共有できる装置です。例えば、小さな肝癌の門脈血流と動脈血流を分けて診断することが可能であり、肝癌の性質や広がりを正確に診断することができます。また、治療の状態をその場で確かめることができ、肝癌の診断・治療に欠かせないものです。

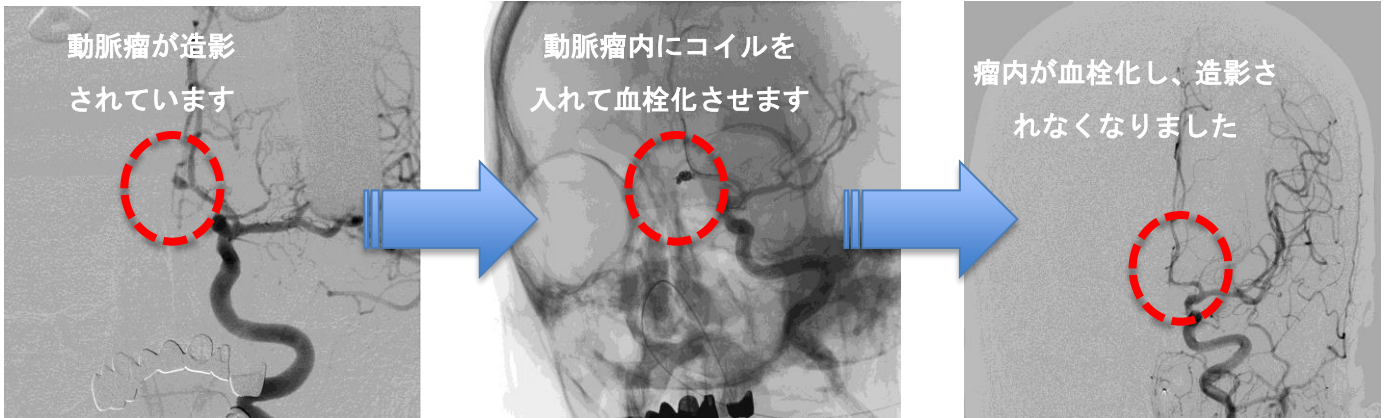
当院では、CT 付きバイプレーン装置が稼働しています。



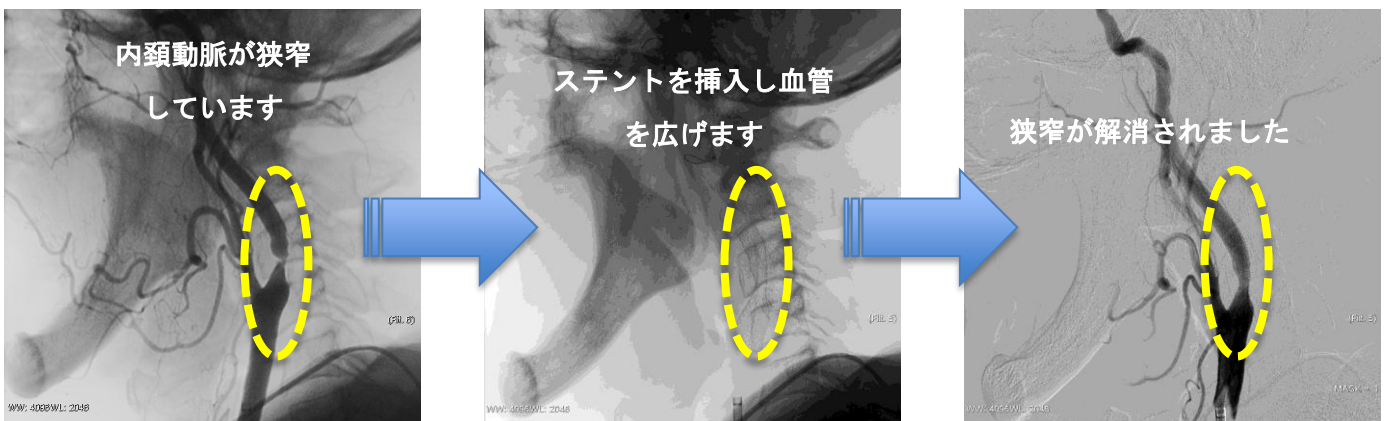
# 血管撮影室で行われている主な検査

## <頭・頸部血管造影検査>

- ☆ 脳動脈瘤の発見やコイル塞栓などの血管内治療を行います。
- ☆ 急性期脳梗塞に対して血栓溶解術を行うこともあります。

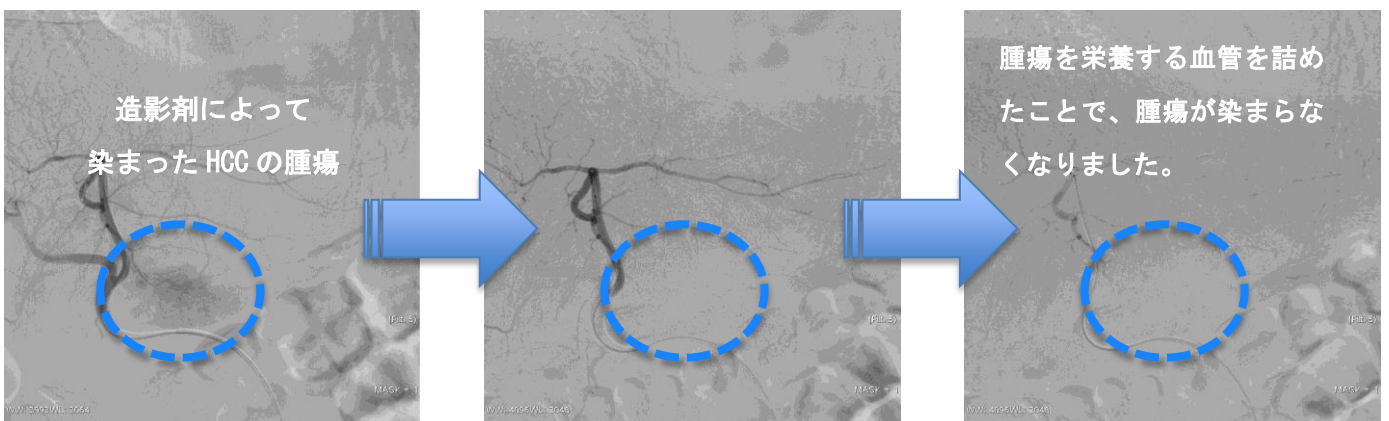


- ☆ 頸動脈狭窄症に対するステント留置術(CAS)なども行っています。血栓が脳血管へ流れて脳梗塞を起こすのを防ぐフィルターを留置した後、狭窄部をバルーンで内側から広げステントを留置します。



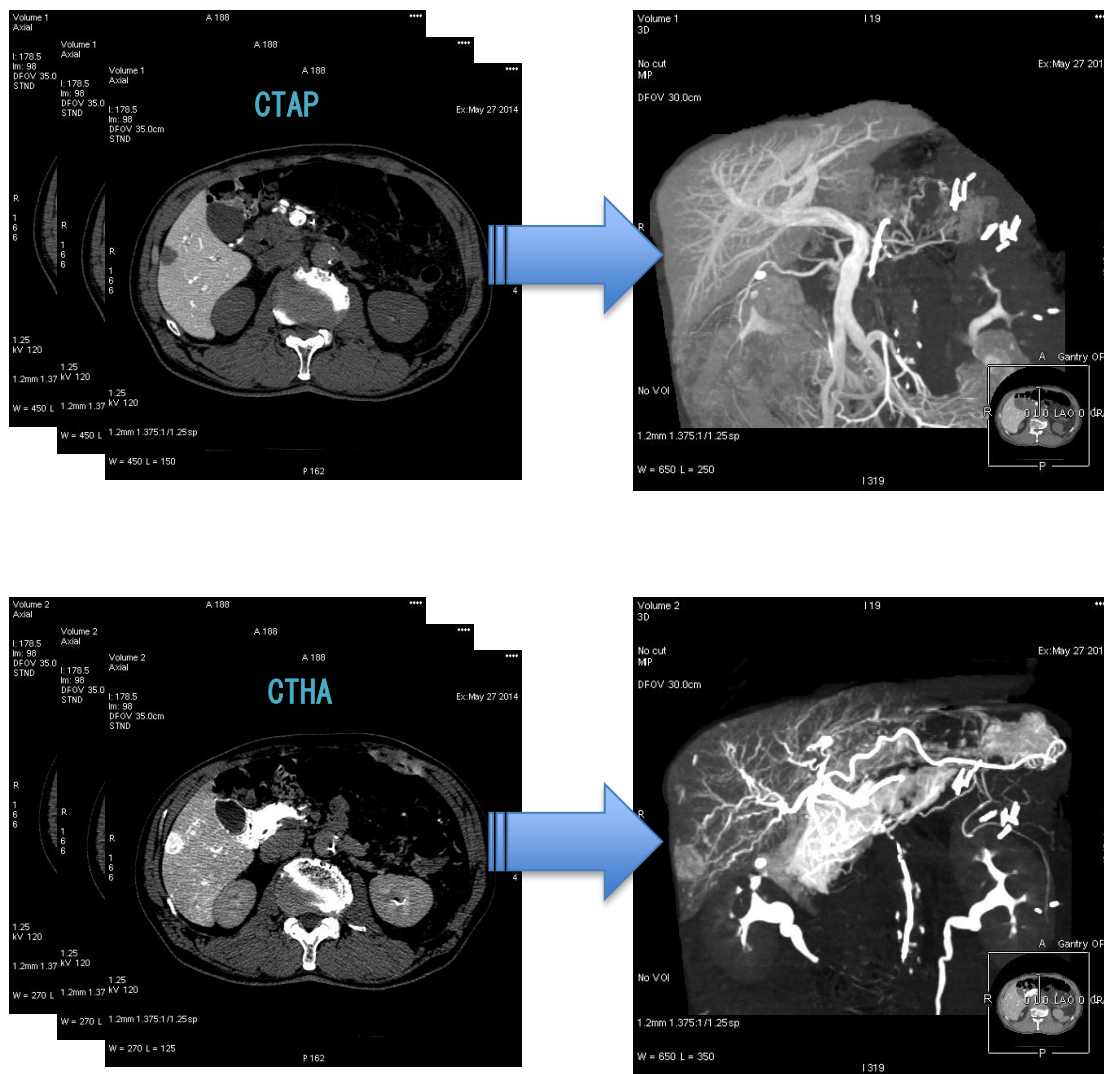
## <腹部血管造影検査>

- ☆ 肝臓の腫瘍(主に肝細胞癌)に対する造影検査や治療(腫瘍塞栓術)を行います。
- ☆ CVリザーバ、動注リザーバなどの植え込みを行います。
- ☆ 透析用シャント造影検査および治療(PTA)を行います。



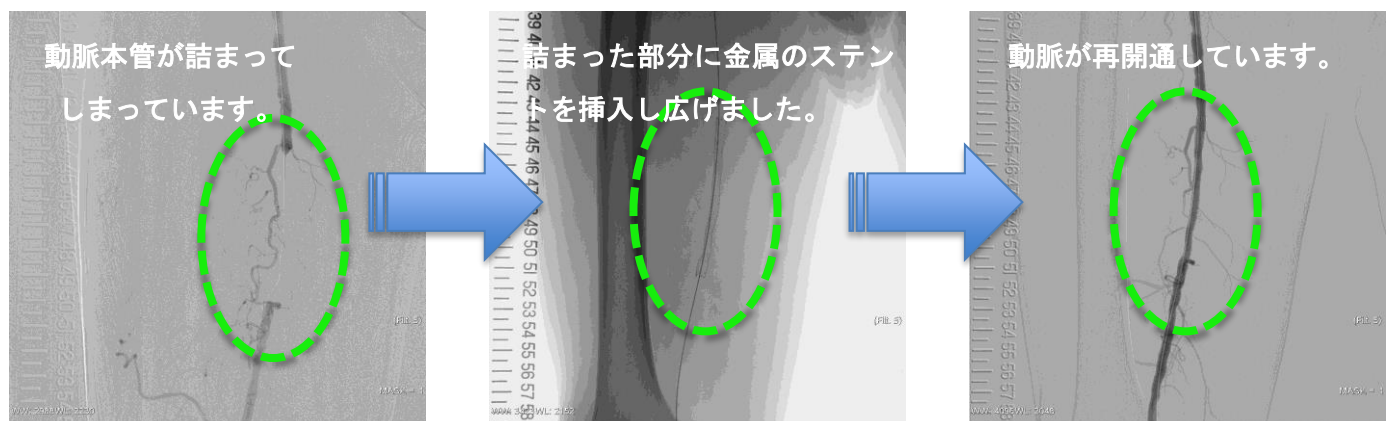


検査中に、動脈内に直接造影剤を流し CT を撮像して血流を確認しながら治療を進めることもあります。



### <四肢血管造影検査>

- ☆ 下肢 ASO に対する造影検査や治療 (PTA) を行います。
- ☆ 内腸骨動脈瘤などに対してコイル塞栓術を行います。



## <心臓カテーテル検査>

不整脈や狭心症、心筋梗塞などの循環器疾患に対して、心臓カテーテル検査を行っています。

不整脈は、心臓を動かすための電気の流れが乱れたりうまく伝わらないことによって、脈が速くなったり遅くなったりすることを言います。

狭心症は、心臓の筋肉を栄養している冠動脈が動脈硬化により狭くなったりして心筋に十分な酸素が供給されず、一過性の虚血が生じ胸痛や胸部圧迫感などの症状が現れることを言います。

心筋梗塞は、冠動脈がつまってしまい、その先に血液が流れなくなることで激しい胸痛があらわれることを言います。そのまま放置すると、心筋が壊死してしまい、心臓の動きが悪くなり心機能が落ちてしまいます。

当院では、バイプレーンの装置が 2 台設置されていて、カテーテル検査やペースメーカーの植え込みなどを行っています。



## ＜冠動脈に対するカテーテル治療＞

手首や足の付け根の動脈から、カテーテルと呼ばれる細い管を心臓まで到達させます。カテーテルを通してバルーンやステントを狭窄部位まで運び、血管の内側から広げて治療します。

